

ねん がつなの か
2024年7月7日

ねんかんだい しゅじつ
年間第14主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

せいじょうせい ことば さいがい ちよくめん せいかつ えんちよう
正常性バイアスという言葉があります。災害などに直面しても、いつもの生活の延長
じょう ものごと はんだん つごう わる じょうほう むし こんぎょ じぶん だいじょうぶ
上で物事を判断し、都合の悪い情報を無視することで、根拠のない、「自分は大丈夫」、
「まだまだ大丈夫」などという思い込みが、災害時の被害を大きくすることだと、ネット
じょう うえ などにはその意味が記載されています。

おお ばあい じんせい なか おお へんか きら せき でき
多くの場合わたしたちは、人生の中で大きな変化を嫌います。とりわけ予測できない出
きごと そうごう はんだん みずか のうりよく できごと こ
来事に遭遇したとき、判断するための自らの能力を出来事が超えてしまうため、これ
までのいつもの経験に基づいて判断しようとするために、実像を把握することができま
せん。

「わたしは弱いときにこそ強いからです」と逆説的な言葉をコリントの教会への手紙
に記すパウロは、人間の思い描く理想とは異なる、いわば逆説の中に、神の真理は存在
していることを指摘しています。わたしたちの判断能力を遙かに超える神の働きを知
るためには、人間の常識にとらわれていては、実像を把握することはできないことをパ
ウロは指摘します。

しんこう せいじょうせい す き にんげん ちから げんかい みと へじ
いわば信仰における正常性バイアスを捨て去り、人間の力の限界を認めたときに初め
て、「キリストの力がわたしのうちに宿」り、その本来の力を発揮するのだと、パウロ
は指摘します。

マルコ福音に記されたイエスの物語は、この事実を明確に示します。目の前に神ご自身
がいるにもかかわらず、人々の心の目は、人間の常識によって閉ざされ、神の働き直視
することができません。判断する能力を遙かに超えることが起こっているために、都合
の悪い情報から目を背け、自分の常識の枠内で判断しようとするのですから、神の子
の言葉と行いを、故郷の人々は理解することができません。

おも あ 思い上がりのうちに生きている人間は、かんたん 簡単に過去の じょうしき 常識の せき 枠にがんじがらめにされ、
じぶん 自分たちがただ おも こ 正しいと思ひ込んで せんたく 選択した こうどう 行動が、じっさい 実際には 神に さま 逆らう けつ 結果を かね 招いている
ことに さえ 気がつかせません。

さくねん 昨年10月に がつ バチカンで かいさい 開催された シノドス だいいちかい き 第一会期の際に、きょうこうさま 教皇様は いく 幾たびも かいじょう 会場に
あし はこ 足を運び、あつ 集まったわたしたちに、せいれい 聖霊が しゅやく 主役です。あなた方が しゅやく 主役ではありません。
あなた方が なに 何をしたいのかを 聞きたいのではありません。せいれい 政令が なに 何を かつ 語りかけているの
かを 聞きたいのです」と くりかえ 繰り返されました。

きょうこうさま 教皇様は、ふくいん 福音の よろこ 喜びの中で、なか 宣教を せんきょう 中心とした ちゅうしん 司牧では、しぼく 『いつもこうしてき
た』という あんい 安易な しぼくき 基準を す 捨てなければなりません (33)』と よび 呼びかけておられました。
た。

いま 教会に ひつよう 必要なことは、ぜんれい 前例にとらわれて みずか 自らの じょうしき 常識の せき 枠にがんじがらめになるこ
とではなく、みずか 自らの よわ 弱さを 認め、かみ 神の ほん 働きを し 識ることができるよう、せいれい 聖霊の みちび 導きに
ゆうき 勇気を持って 身 を 任せ ます。